

憲法九条をめぐるメディアの主張

～朝日新聞・読売新聞の社説の比較～

和光大学・伊藤ゼミ

目黒健太(人間発達学科4年)

問題意識

新聞(日刊紙)の流通量が世界第三位である日本では、新聞から得る情報や影響が大きく、**世論を形成・左右する力**ともなる。

新聞は国の根幹である憲法について、どのような主張をしてきたのだろうか。新聞の主張を比較し、**憲法九条に関わる態度**を考えたい。

表1 各国の成人人口1000人あたり部数が500部を超えている国（2007年度）

部数順位	国名	成人人口 1000人あたり部数
①	アイスランド	882.6
②	デンマーク	647.4
③	日本	624.9
④	スウェーデン	601.4
⑤	ノルウェー	580.3
⑥	スイス	575.9
⑦	香港	569.5
⑧	フィンランド	548.9
⑨	シンガポール	509.9

部数は新聞が国民世論を築く土台となる。

有料・無料の日刊紙の部数・紙数。

日本新聞協会 調査「[各国別日刊紙の発行部数, 人口1,000人あたり部数, 発行紙数](#)」参照

「憲法改定」議論の争点と定義

憲法改定の理由には、以下の理由が挙げられる。

- ① **天皇の地位**に関する条項を修正・廃止するという議論。
- ② **憲法九条**に関する条項を変更・緩和する議論。
- ③ **新しい人権**(プライバシー権、環境権など)を盛り込むとする議論。

※今回は②の憲法改定について研究する。

ウィキペディア(Wikipedia)「憲法改正論議」参照

研究目的

朝日新聞・読売新聞が主張する、憲法九条への態度の要因を探る。

- ①憲法九条に対する主張、根拠の比較。
- ②もし主張が変化しているなら、それはどのような理由か。

上記2点を検証し、新聞の報道について考えたい。

研究方法

- 朝日新聞、読売新聞の1989年～2009年の憲法記念日すなわち5月3日の朝刊の社説を研究対象とする。
5月3日としたのは、新聞社の憲法世論調査結果の発表により、憲法九条への態度が分かりやすく示されることが理由。
- 和光大学図書館を通して、朝日新聞記事については聞蔵Ⅱビジュアル for Libraries（朝日新聞記事データベース）、読売新聞記事についてはヨミダス歴史館（読売新聞記事）のデータベースから該当する社説をダウンロードし、テキストデータに加工した。
- TextMiningStudio Ver3.1（数理システム社）を用いて分析を行った。

表2 基本情報

	総行 (段落数)	平均行長 (一段落あたり文字数)	総文数	平均文長 (文字数)	述べ単語数	単語種別数
全体	638	42.7	1172	23.2	9791	3846
朝日	609	46.9	1254	22.8	10430	4275
読売	552	39.7	905	24.2	7787	3030

- 朝日：総分数が多い。述べ単語数と単語種別数が読売と比べ多く、説明的な傾向が伺える。
- 読売：朝日と比べ、まとまっている。結論を最小限の用語で伝えようとしていることが伺える。

表3 年度別の特徴語分析

□はその年の最多単語 ※朝日・読売の合計数値

単語	品詞	1989	1990	1991	1992	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2002	2003	2004	2005	2006	2008	2009
▶ 憲法	名詞	17	3	1	9	13	14	4	19	8	10	12	3	23	14	2	3	1	7
日本	名詞	6	11	5	23	9	14	1	9	4	3	4	5	16	6	0	1	0	10
世界	名詞	7	11	9	9	2	10	0	9	0	3	2	0	2	2	0	0	0	4
国民	名詞	17	0	3	3	1	6	2	2	2	7	5	2	2	9	2	0	0	6
自衛隊	名詞	0	0	3	4	1	5	0	1	0	13	0	3	6	12	1	0	0	1
国	名詞	1	0	0	2	2	16	0	3	3	4	0	1	12	2	0	0	2	0
必要	名詞	1	3	2	1	1	5	1	2	1	7	3	0	3	3	1	2	2	1
憲法改正	名詞	0	0	0	0	3	0	2	3	0	2	0	0	3	3	5	7	2	3
時代	名詞	2	2	0	3	4	1	1	0	2	2	1	2	0	4	1	4	0	4
問題	名詞	2	4	1	0	3	5	0	3	2	5	1	2	1	1	0	0	2	1
人	名詞	1	0	0	1	2	1	1	5	0	2	6	0	1	5	0	2	0	3
政治	名詞	16	2	1	3	0	1	0	0	1	2	0	0	2	1	0	0	0	1
平和	名詞	2	5	5	2	0	4	0	2	0	2	1	0	4	2	0	0	0	1
提言	名詞	1	0	0	0	0	13	1	5	1	3	0	0	0	1	2	1	1	0
議論	名詞	0	0	0	1	3	3	3	1	6	0	2	0	0	4	2	0	2	0
現実	名詞	3	3	0	3	0	1	0	5	1	2	0	2	3	1	1	0	0	1
戦争	名詞	0	0	7	0	1	3	0	0	0	0	0	1	9	2	0	0	0	3
変化	名詞	1	1	0	0	2	1	0	2	1	2	0	5	1	6	2	2	0	0
考える	動詞	0	0	0	5	3	2	1	1	0	1	1	3	1	4	1	0	0	0
国会	名詞	3	0	0	0	1	1	1	1	2	3	2	2	0	2	1	0	1	2

表3についての分析

最多単語は、どの年度も「憲法」「日本」が多いが、他の単語は1～2回程度しか出てこない。
全体での比較が困難なので、・年代別、・新聞別に区分して、分析を行った。

表4 社説で使われる単語の変化(年代別)

「90年代以前」「2000年代以降」の特徴語分析

※朝日・読売の合計数値

1990年代以前

単語	品詞	属性頻度	全体頻度	指標値
▶ 世界	名詞	55	64	31.558821
政治	名詞	24	28	13.678219
問題	名詞	25	30	13.183629
日本	名詞	73	108	12.436862
貢献	名詞	13	13	10.176775
提言	名詞	21	26	10.052314
平和主義	名詞	16	18	9.970425
読売新聞社	名詞	11	11	8.611117
繁栄	名詞	11	11	8.611117
理念	名詞	13	15	7.621938
現行憲法	名詞	12	14	6.839109
国際社会	名詞	15	19	6.632759
わが国	名詞	10	11	6.55087
果たす	動詞	10	11	6.55087
厳しい	形容	10	11	6.55087
立つ	動詞	10	11	6.55087
基本原理	名詞	8	8	6.262631
内容	名詞	8	8	6.262631
つく	動詞	7	7	5.479802
もたらす	動詞	7	7	5.479802
政治家	名詞	7	7	5.479802
発展	名詞	7	7	5.479802

2000年代以降

単語	品詞	属性頻度	全体頻度	指標値
▶ 憲法改正	名詞	20	30	17.72008
民主党	名詞	10	10	12.774184
変化	名詞	16	26	12.610406
衆参両院	名詞	10	11	11.991355
大きい	形容詞	13	19	11.909466
九条	名詞	12	18	10.632048
米国	名詞	12	18	10.632048
社会	名詞	10	13	10.425698
小沢氏	名詞	8	8	10.219347
読売新聞	名詞	9	11	9.931108
北朝鮮	名詞	8	9	9.436519
権利	名詞	11	17	9.35463
イラク	名詞	9	12	9.148279
憲法	名詞	58	142	8.332645
時代	名詞	16	32	7.913433
憲法調査	名詞	8	11	7.870861
支持	名詞	8	11	7.870861
集团的自	名詞	8	11	7.870861
戦争	名詞	11	19	7.788972
イラク戦争	名詞	6	6	7.664511

表4について 年代別の特徴語分析

●1990年代以前

特徴的なキーワードは、「日本」「世界」「問題」「提言」「平和主義」「国際社会」。

抽象的な用語、理論的な用語が多く、**憲法の理念**を語っている。説得的。

●2000年代

特徴的なキーワードは、「憲法改正」「民主党」「北朝鮮」「憲法調査会」「集団的自衛権」。

90年代よりも、憲法改正を強く主張している。

外的要因を憲法改正の根拠にあげている。具体的。

表5 新聞別の特徴語分析

※「90年代以前」「2000年代」の合計数値

朝日新聞

単語	品詞	属性頻度	全体頻度	指標値
▶ 戦争	名詞	17	19	16.729496
九条	名詞	16	18	15.637657
目	名詞	14	17	12.538092
世界	名詞	35	64	11.653688
イラク	名詞	11	12	11.094346
貧困	名詞	10	10	10.918393
平和主義	名詞	13	18	9.614482
米国	名詞	13	18	9.614482
平和憲法	名詞	9	10	8.910668
精神	名詞	8	8	8.734714
権利	名詞	12	17	8.522643
平和	名詞	17	28	8.486524
支持	名詞	9	11	7.994782
主張	名詞	9	11	7.994782
改憲	名詞	8	9	7.818828
見える	動詞	8	9	7.818828
増える	動詞	8	9	7.818828
アジア	名詞	7	7	7.642875
強い	形容詞	8	10	6.902943
国際貢献	名詞	7	8	6.726989
湾岸戦争	名詞	7	8	6.726989

読売新聞

単語	品詞	属性頻度	全体頻度	指標値
▶ 憲法改正	名詞	29	30	25.468847
変化	名詞	25	26	21.805304
問題	名詞	25	30	17.437947
国会	名詞	19	22	14.126311
議論	名詞	21	26	13.774404
現実	名詞	21	26	13.774404
現行憲法	名詞	14	14	12.8224
憲法論議	名詞	13	13	11.906514
安全保障	名詞	15	17	11.554607
国会議員	名詞	11	11	10.074743
賛成	名詞	11	11	10.074743
読売新聞	名詞	11	11	10.074743
読売新聞社	名詞	11	11	10.074743
発表	名詞	12	13	9.898789
課題	名詞	11	12	8.982904
責任	名詞	12	14	8.80695
設置	名詞	12	14	8.80695
憲法問題	名詞	9	9	8.242972
同様	名詞	9	9	8.242972
必要	名詞	22	33	8.139254

表5について 新聞別の態度

●朝日新聞

特徴的なキーワードは、「戦争」「九条」「イラク」「貧困」「平和主義」「平和憲法」「権利」。

憲法改正を「改憲」と表現し、**憲法改正に否定的な態度**。

●読売新聞

特徴的なキーワードは、「憲法改正」「変化」「問題」「国会」「議論」「憲法論議」「安全保障」。

憲法改定にむけた手続きを、丁寧に説明する語句が目立つ。**現行憲法への疑問**を投げかけているものが多い。

表5について 態度に関わる原文

●朝日新聞

「自衛権に基づく自衛組織の保有を憲法は禁じていないとの立場を明確にしたうえで、現憲法、とくに**九条の改定に強く反対**する。」(1995年)
「憲法の改正を必要と思う人は47%と、不要という人の36%を上回った。しかし、だからといって、改憲が国民にとって、具体的で切実な課題かといえ、そうではあるまい。」(2001年)などが挙げられる。

●読売新聞

「憲法改正に賛成の人が昨年、今年と二年連続で過半数を占めた。環境権など新しい権利の導入を求める声も多くなっている。**憲法も時代の要請に応じて変えていく必要**がある。」(1998年)
「日本の安保環境や国際情勢の変化が**日米同盟の強化**を迫っている現状を見れば、憲法改正を待つことはできない。」(2007年)などが挙げられる。

表6 新聞×年代の特徴語分析

□ は朝日新聞、□ は読売新聞

	n-朝日	d-2000年代	指標値	n-朝日	d-90年代	指標値	n-読売	d-2000年代	指標値	n-読売	d-90年代	指標値
▶ 憲法			24.667	世界		20.817	憲法改正		34.973	問題		24.617
戦争			19.751	目		14.089	変化		26.978	憲法		17.277
九条			17.615	平和主義		13.471	民主党		17.489	読売新聞社		15.203
権利			15.479	カネ		9.708	衆参両院		16.988	現行憲法		15.138
イラク			15.215	平和憲法		9.472	読売新聞		16.988	議論		14.878
米国			15.011	アジア		9.09	小沢氏		15.99	世界		12.651
支持			13.079	わが国		8.854	集団的自衛権		14.489	日本		12.399
人			12.202	難民		8.09	大きい		12.986	発表		11.65
精神			11.88	発信		8.09	内閣法制局		11.492	国際社会		11.52
貧困			10.943	非軍事		8.09	乖離		11.492	政治		11.325
草案			10.212	見える		7.854	活動		11.49	基本原理		11.057
改憲			8.807	貢献		7.618	成立		10.992	内容		11.057
改憲論			8.807	憲法理念		7.472	3分の		9.994	発展		9.675
増える			8.807	個人		7.472	憲法審査会		9.994	憲法論議		9.545
若者			8.544	使う		7.472	国民投票法		9.994	指摘		8.886
総司令部			8.544	強い		7.236	10年		9.494	責任		8.821
人権			7.608	つく		6.854	急ぐ		9.494	安全保障		8.756
人々			7.14	国際協力		6.854	試案		9.494	超える		8.756
社会			6.935	持つ		6.763	憲法調査会		9.491	現実		8.561
日本			6.73	みる		6.618	憲法解釈		8.993	緊急事態		8.292
			0	厳しい		6.618	定める		8.993	論憲		8.292
			0	繁栄		6.618			0			0

表6について

新聞×年代の特徴語分析

●朝日新聞

90年代:「世界」「平和主義」「平和憲法」など、**普遍的な価値**に憲法九条の意義を述べている。

2000年代:「九条」「イラク」「米国」など、9.11テロ、イラク戦争後の**世界情勢**を中心に述べている。

●読売新聞

90年代:「問題」「議論」「政治」など、**政治主導の憲法議論**を重視していたことが伺える。

2000年代:「憲法改正」「集団的自衛権」「国民投票法」など、海外での武力行使を積極的に受けとめ、**法整備に向けた議論**を打ち出している。

図1 対応バブル分析(n:新聞、d:年代)

属性と表現の関係

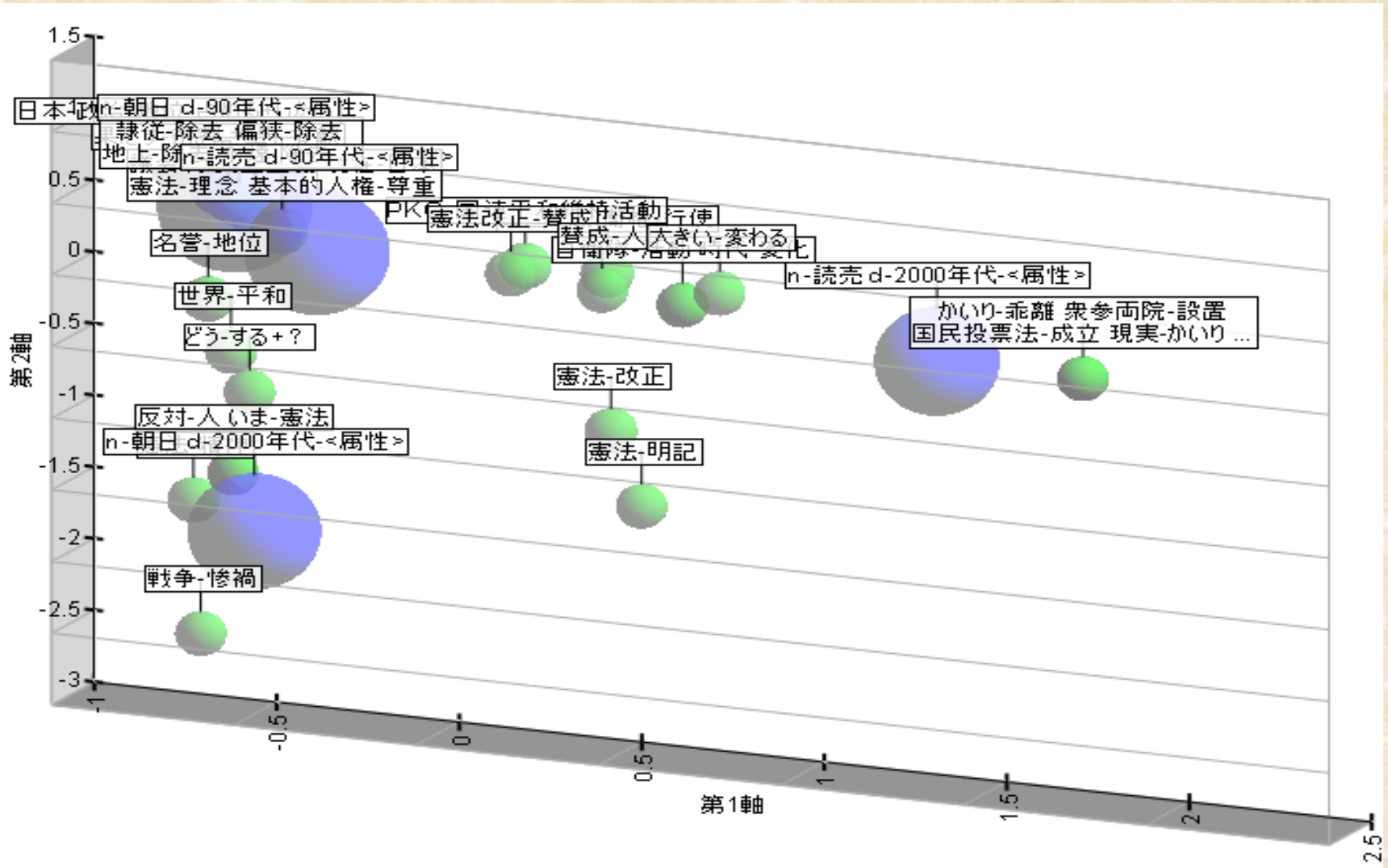


図1について

対応バブル分析(年代×新聞の比較)

「朝日(90年代)」と「読売(90年代)」の属性は、重なり合っている。
憲法—理念、基本的人権—尊重、議会制—民主主義など。

一方、「朝日(2000年代)」と「読売(2000年代)」の属性との間には、
大きく差がある。

「朝日(2000年代)」は、戦争—惨禍、憲法—精神と距離が近い。
「読売(2000年代)」は、国民投票法—成立、現実—乖離と距離が
近く、90年代と比べて大きく離れた。

《考察》

考察① - 1

憲法九条に対する主張、根拠の比較

●朝日新聞

- ・主張:憲法九条は**維持**していく立場。
- ・根拠:「改憲」が、日本にマイナスになると考えたため。

●読売新聞

- ・主張:憲法九条は**見直し**を進める立場。
- ・根拠:「憲法改正」は国民の支持であり、現実との「乖離」があるため。

考察① - 2 主張・根拠に関わる原文

特徴語分析で比較。主張は「憲法九条」、根拠は「憲法改正」でテキスト検索。

●朝日新聞

主張:「私たちは、国家戦略として、**憲法九条は改定すべきではない**、との立場をとってきた。軍事に優越的な価値を認めないという戦後日本の枠組みは、九条あってこそのものであり、わが国の安全保障にとっても、改定はむしろ害が大きい、と考えるからだ。」(2000年)

根拠:「改憲の旗振り役をつとめてきた読売新聞の調査では今年、93年以降の構図が逆転し、**改憲反対が賛成を上回った**。朝日新聞の調査でも、9条については改正賛成が23%に対して、反対は3倍近い66%だ。」(2008年)

●読売新聞

主張:「読売新聞憲法問題調査会は昨年末の第一次提言で、解釈の混乱を避け、また、今後の国連活動の拡大強化にも対応できるよう、安全保障基本法の制定と、将来の**憲法九条二項の改正を提言**した。」(1993年)

根拠:「読売新聞の世論調査によると、憲法改正に賛成の人は54%と、六年連続で半数を超えた。**憲法改正論が国民の間に広く定着**したことは、もはや明らかだ。」(2003年)

考察② どのような主張をしてきたか。

●朝日新聞

90年代以前から憲法九条の改定には反対してきた。しかし、憲法改定そのものには否定的ではない。

「いまの憲法は占領時代に、GHQの連合軍総司令部素人が短期間で書き上げ、日本に押しつけたものだ。時代は移り、9条など現実にそぐわない条文も出てきた。国の基本法である憲法を、国民自らの手で白地から書くという決意と精神によって、この国に改革の気概がみなぎってくる。そうすることで**精神的に占領を終わらせる**ことになる。」
(2007年)

●読売新聞

90年代以前までは憲法改正の議論そのものを推進してきた。

「売新聞憲法問題調査会は昨年末の第一次提言で、解釈の混乱を避け、また、今後の国連活動の拡大強化にも対応できるよう、安全保障基本法の制定と、将来の憲法九条二項の改正を提言した。」(1993年)

2000年代からP14のように、具体的な目的を掲げて憲法改正を推進している。

考察③

社説比較分析におけるテキストマイニングの有効性

- ・大量のデータを、短時間で整理・比較することができ、客観的にデータ収集が可能。
- ・図や表の作成により、一目で結果を分かることができる。
- ・収集データの検討、問題設定の見直しなどを通して、メディアリテラシーを養うことができる。

結論

・朝日新聞と読売新聞とは、対比する新聞だと認識していた。

しかし、実際は**どちらも憲法改定には賛成**であった。

「いまの憲法は占領時代に、GHQの連合軍総司令部素人が短期間で書き上げ、日本に押しつけたものだ。」(朝日 2007年)

「2年前、憲法改正の手続きを定めた国民投票法が成立した。国民の手で憲法を改正するための画期的な法律である。」(読売 2009年)

・憲法九条の条文改定には**朝日は反対、読売は賛成**の立場である。

「改定には益よりもはるかに害が多く、反対である日本は非軍事に徹する。国際協力にあたっては、軍事以外の分野で、各国に率先して積極的に取り組む。」(朝日1995年)

「憲法改正の環境は整いつつある。もはや、新憲法への、歴史の流れを逆流させることは出来ない。」(読売 2004)

・**表現の違い**。

朝日新聞は、憲法九条に的を絞り「改憲」と表現。

読売新聞が、憲法全体を改定する「憲法改正」と表現。

・**メディア主導での憲法議論**という、限界があるように感じる。

二社とも憲法の原則を尊重しており、メディアによる世論形成には客観性がさらに必要。

引用・参考資料

- ・社団法人日本新聞協会pressnet
- ・ウィキペディア(Wikipedia)「憲法改正論議」